

1、 ちぬまん(テングハギ)の突き方

海外で行うスピアフィッシング(魚突き)では難易度が高いとされているテングハギですが、ある方法を使えば昼間でも簡単に突く事が出来ます。当倶楽部の魚突きマニュアルをご覧になった方は分かるかと思いますが、そのある方法とはズバリ、「穴うち」です。ですが簡単に穴うちをやれと言われてもどこにちぬまんが隠れているか分からない事には、はじまりません。そこで、今



回はちぬまんが昼間に隠れるような場所とシュツエーションをご紹介します。まず場所ですが基本的にちぬまは、沿岸やサンゴ礁が豊富にある岩礁域に生息していて、寝ている時以外は殆ど藻類を探して食べ回っています。さらに、単体で行動する事は殆どなく、小さな群れで動き回る為、一匹いれば近くに数匹いると考えてよいでしょう。ですがちぬまは、近づいてくる人間に気づくと、ある一定の距離を保ちながら移動していくので、泳いで射程圏内に入る事は殆どできません。もっとも近くに寄れる唯一の方法は、ちぬまんが岩の中に隠れている時になります。岩の穴の中に隠れているちぬまはこちらが岩の外から穴を覗いても、出てくる事は滅多になく、中でじっとしています。その時が突くチャンスになります。

この時重要な事は、隠れやすい岩のある所で勝負すると言う事になります。いくらターゲットが沢山いる場所でも岩の中に隠れてくれなければ、近くに寄る事すら出来ないでしょう。ちぬまんが隠れる岩のポイントとしては、イノー(リーフの上で少しへこんでいる水たまりのような比較的浅瀬)の中になります。リーフの後ろ(アウトリーフ)の深場にも泳いでいますが、広い範囲に逃げる事が出来る為、なかなか岩の中に隠れる事はありません。ですが、イノーの中の比較的浅瀬になると、逃げ道が限られている為、遠くからやって来る人間に気づくと岩の中に隠れます。隠れた穴を確認したら、後はその穴の中を海中電灯で照らし、出来れば目の後ろの急所を狙って突きましよう。又、泳いで隠れる所を確認できなかったとしても、枝サンゴの死骸に出来た穴に隠れている事がありますので、“潜って穴を照らし、潜って穴を照らし”と言うような感じで探してみると良いでしょう。そしてもう一つのポイントは、穴の中が大きな巨大な岩になると中で動き回って奥の方に行ってしまう、届かなくなる為、出来れば小さめの岩が20メートル~30メートル間隔であるような浅瀬を狙ったほうが良いです。テトラや、大きなリーフサンゴの中にいるちぬまを狙う時は、最初からモリゴムを引いた状態で潜り、穴を覗いてから奥に逃げていく前の一瞬のチャンスを狙う方法もあります。基本的にちぬまがいるような上記の場所と言うのは、満潮時になると高波で適度に荒れている方が良いでしょう。その時にリーフ



の外側にいる魚がリーフのイノーまで上がって来ると言う事になりますから。高波で上がってきた魚は、干潮時で水たまりのようになったイノーの中から出る事が出来ず、仕方なく穴の中に隠れると言った感じになっていると思われれます。最後になりますが、突きたてのちぬまんは脂がのっており、刺身にしてとても美味しく食べる事が出来ます。しかし、獲ってから1日~2日以上たってしまうと臭みが増す為、スーパーでは殆ど販売されていません。



ですから、取り立ての新鮮なちぬまんを堪能できるのは、魚突きが出来ると言うの特権と言っても良いかもしれませんね！因みにサイパンでは、バーベキューにして食べるのがメジャーで、同じく脂がのって最高に美味しく食べる事が出来ますよ！是非お試しください！！